

端末室配信システム

総合情報基盤センター 技術職員 山田 純一

新情報システムにおいて導入された、Windows 端末への配信システム (Altiris 6 Client Management Suite 及び ShadowMode Desktop Protector) について簡単に紹介する。

Altiris 6 Client Management Suite では、Windows 端末への Windows Update のセキュリティ更新作業、ソフトウェア・アプリケーション配布、環境移行、バッチ管理の自動化などを行うシステムである。また、この配信システムは以前の配信システムとは違い、これらの一連の作業を単一のリモートコンソールから管理・運用することができ (図 1)、

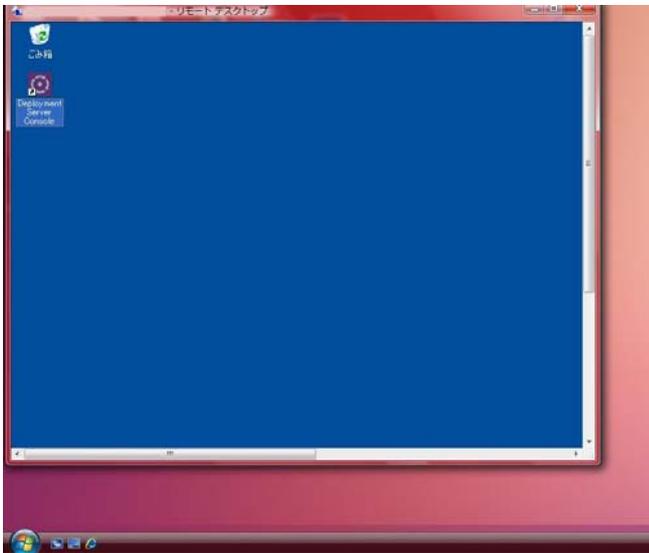


図 1 リモートコンソール

各 Windows 端末への配布もスケジュールによって、行えるのが特徴である (図 2)。

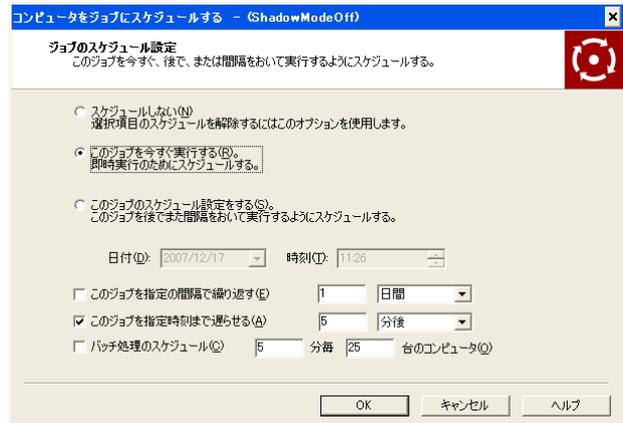


図 2 スケジュール管理

また、スケジュールによる各端末への配布のほか、システム上では各端末 1 台 1 台にリモートコントロールする (図 3) ことができ、電源制御 (再起動、シャットダウン) 等を一斉に行うことも可能である。いずれのこの操作も GUI 画面においてドラッグ&ドロップするだけで操作可能である。

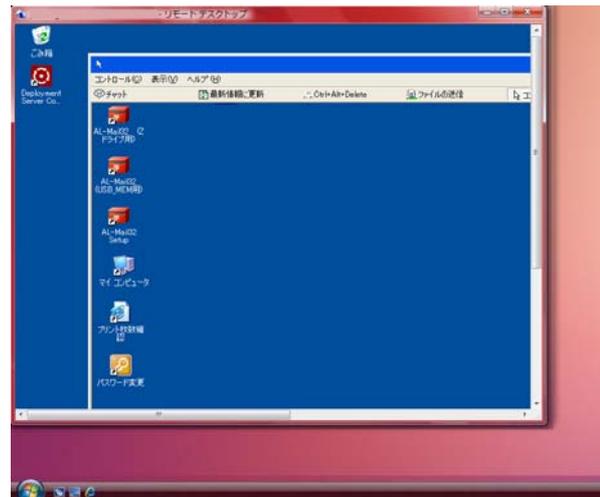


図 3 Windows 端末へのリモートコントロール

続いて、ShadowMode Desktop Protector は Windows 端末の変更操作を保護するセキュリテ

ソフトウェアである (図 4)。



図 4 ShadowMode

例えば、学生が Windows 上のファイルを誤って削除した、C ドライブ上に勝手にフォルダ等を作成したとしても、端末を再起動するだけでそれらの操作は無効になり、端末は元の状態に戻る。

この配信システムにより、旧配信システムでは 10 台ずつしか配信することができなかったが、今回のシステムに関しては一端末室単位、数十台を一斉に配信することが可能になった。配信にかかる時間も 2 日間かかっていたものが、1 日に短縮することが可能になった。

しかしながら、配信途中での学生による人為的な停止、機器故障等の発生、ネットワークの切断等の場合は配信が正常に終わらず、その部分は手作業で作業しなければならないのは以前と同じである。

また、導入するソフトウェアもバージョンアップ等に伴い、ディスク容量を多く使用すること、要望によって端末室ごとに異なるアプリケーションが導入され、共通の端末室イメージが端末室ごとのイメージになったこと、ソフトウェアのインストール依頼がセンターの作業終了後に急に発生すること等により、実際の作業時間は旧配信システムを使用していた以前とほとんど変わらないのが現状である。